

地域づくり活動 NPO 事業

助成事業 実績報告

事業区分 (17-01)

団体名	(特非) 健康・生きがい就労ラボ	代表者名	理事長 遠座 俊明
事業名	高齢者の健康づくりに貢献する就労開発事業		

<事業実施実績>

年月日 定例は「月1回」「毎○曜日」等で記入	場所	参加者 一般 (スタッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) ※講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
<p><クリエイター養成事業 スマホで宝塚グラフィック養成講座>チラシ添付① まち記者を養成し、情報発信することを通じてお仕事をさせていただくことをめざす。 フレミラ（宝塚市立老人福祉センター）で養成活動を行い、Instagram、CanvaなどのSNSや情報加工技術を習得していただく。 ※長い間働いたことのないメンバーが会長となり記者クラブ（同好会）を立ち上げ、フレミラの行事などを取材し、情報発信することで謝金を得る予定（R5年5月から開始）。 この講座で習得したCanvaやInstagramを使い、地域の団体や事業者の活動、イベント、商品・サービスなどを取材・発信し、コミュニティビジネスに発展していくことを期待。</p>			
9月 1日	フレミラ	4 (7)	スマホで宝塚グラフィック養成講座 スマホで写真の撮り方、実習 原田義則講師
9月15日	フレミラ	4 (7)	スマホで宝塚グラフィック養成講座 映える写真とは 原田義則講師
9月29日	フレミラ	4 (5)	スマホで宝塚グラフィック養成講座 編集ビジュアルについて 井川講師
10月13日	フレミラ	4 (6)	スマホで宝塚グラフィック養成講座 Instagram、Canva 橋之爪講師
10月27日	フレミラ	4 (6)	スマホで宝塚グラフィック養成講座 フレミラ祭の取材について 発表会フレミラ記者クラブ 井川講師
10月29日 11月10日	フレミラ	4 (2)	フレミラ記者クラブとしてフレミラ祭取材 作品作成→フレミラ卒業写真集に作品を掲載 かむかむフレミラなどに掲載
<p><大人の学び直し塾> 当初は秋開催を予定していたが、コロナ禍や同会場（ソリオ2）で類似講座が開かれるなどがあったこと、また当初予定していたクリエイター養成講座がフレミラで展開できたこともあり、改めてシニアのニーズのヒアリングを行った。 「エライ人の話を聞くよりも、半径5キロぐらいのちょっとすごい人の話を聞きたい」「現役世代がどんなソフトやアプリを使っているのか知りたい」「タイピングの技術があるのに、仕事がない」「音声入力がかんなに発達した時代に、文字打ちなどの在宅ワークはないやろ」「今、身につけないといけないスキルは何?」という意見をもとに、以下のように内容、スケジュールを変更して実施した。 なお、定員20名に対し、申し込みが2倍に達したので、会場を倍にして（隣の部屋を追加して）対応した。</p>			
1月12日	ソリオ2	23 (5)	働き方がマルチステージ化する時代 新しいシニアの働き方 遠座理事長の講演 シニアの学び直し リスキリングについて

			ファシリテーター：井川 受講生に発言していただき、受講生の要望を収集
1月19日	ソリオ2	24 (8)	今こそ！スマホ講座！今さらではなく、今こそ学び直し 大林講師がLINE、zoomなどを講義
2月2日	ソリオ2	24 (6)	地域からの情報発信！今どきの発信方法を知り、身につける！ Instagramを橋之爪講師が講義
<p><生きがい就労に関する諸情報の収集・取材とそれらをまとめた図鑑づくり> 取材・情報収集活動を通して、今、シニアの生きがい就労は、どういう状況であるのかを把握しながら整理し図鑑を作成した。 生きがい就労を紹介したり、コミュニティビジネスの芽を育てている団体、生きがい就労を推進している団体にも直接伺い、色々話を伺った。また、シニア50人に取材を実施し、独自の就労先の選び方などを取材した。</p>			
9月～2月	各所	取材先 により 1～3名	取材先（社協、西宮 re-WORK, 西宮ハローワーク、西宮市役所、商工会議所、サポートセンター、尼崎市立第3老人福祉工場、伊丹市役所、伊丹市立中央公民館、西宮市中高年しごと相談所、ソーシャルスポット西宮よりそい、コミュニティ・サポートセンター神戸、ひょうご・しごと情報広場 シニア世代就労相談口、西宮市中高年しごと相談室、地域共生拠点・あすパーク、シルバー人材センター、生きがいしごとサポートセンター阪神南105、生きがいしごとサポートセンター阪神北、生きがいしごとサポートセンターなどで情報収集)

<効果と成果>

<スマホで宝塚グラフィック養成講座>

フレミラで実験的に先行したが、思いのほか受講生が集まらず、苦戦したが、フレミラの英断で少数精鋭で講座を運営することとなった。スマホが苦手だし、InstagramやCanvaで、全く自信がないと言っていた受講生たちが、「取材って楽しい」「今どきなことができてうれしい」と今後も継続し、活動し、記者クラブ設立に参加してくれた。ゆくゆくはプチ仕事（謝金）として、深化してコミュニティビジネスとして育ててくれたら幸い。カルチャーセンター的な学びをするフレミラから、社会に役立つ実学も学べるフレミラへの躍進イメージの醸成に一助となった。

<大人の学び直し塾>

50人ほどのシニアにアンケートをした時点で、“学び直し”と言っても何から学んだらいいかさえわからない。パソコンはできるがスマホはできないという人が多く見られた。それで、（1）シニア就労の概況、生きがい就労などの状況をお伝えし、リスク回避の要望の高いスマホについて学ぶモチベーションを高め、（2）スマホでのコミュニケーションとしてのマストアイテムであるLINEやzoomなどの実技、（3）プチ企業などで話題のInstagramやCanva（時間切れ）を学んでいただけた。チューターによる今までにない学習方法で、スマホが操作できるようになった。スマホの便利さに気づいた。スマホがネックとなって就職できなかったが、少しできるかもしれないと思った。などの感想をいただいた。スマホをスキルアップすることで、社会で働いてみようかと迷っているシニアの背中を押すことができた。

<生きがい就労に関する諸情報の収集・取材とそれらをまとめた図鑑づくり>

図鑑の取材を兼ねて、いろいろなシニアや推進団体の意見が聞けた。“生きがい就労”という人生100年時代のキーワードを切り札にさまざまな小仕事を切り開いていくことができそうな兆しを感じる事ができた。また、就労したいと思うが迷っているシニアに、生きがい就労している先輩たちの姿を紹介することで、健康・生きがい就労の魅力と必要性を伝えられるように思う。バインダー式なので、自身の記録を書き込んで、カスタマイズして“生きがい就労の母子手帳”のように、活用してもらいたい。

<今後の展望>

さまざまなサポート機関で、Canva 講座の開催がプチブームとなっている。私たちも、シニアたちが1回の講座（フレミラやソリオ2でも1回）の講座で使えるようになったのを目の当たりにしている。Canva のようなノンデザイナー・アプリの浸透は、プロデザイナーにとっては脅威であるが、シニアの可能性を拡げる。それを使いこなして、時間にゆとりのあるシニアが、多忙を極めている役所関係のチラシや広報のサポート制作を小仕事として受注できたら幸いに思う。今後、生きがい就労図鑑を充実させるにもシニアの力を借りて、取材・レイアウト協力をお願いしたい。記者クラブに次ぐ編集工房を立ち上げ、クリエイティブ系シニアの小仕事を創造していきたい。

そして、アクティブシニア記者によるスマートシニアの素敵な姿の紹介を推進していきたい。

働き自らの健康を保ち、小仕事をサプりにアクティブに生きているシニアを増やし、若い世代をシニアが支えるという社会構造を具現できるよう励みたい。

<収支決算書>

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動 NPO 事業助成金	289,000
事業収入	76,000
自己資金	52,802
合計	417,802

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直接 経費	謝金	81,297	81,000
	委託費	176,000	50,000
	人件費	93,875	93,000
	その他（会場費、交通費等）	66,630	65,000
	小 計	417,802	289,000
間接経費（一般管理費）		0	0
合 計		417,802	289,000